

2024年3月22日
熊本大同青果株式会社

株式会社神明ホールディングスとの業務提携締結に関するお知らせ

熊本大同青果株式会社（本社：熊本県熊本市西区、代表取締役会長：月田求仁敬、以下「熊本大同青果」）と、株式会社神明ホールディングス（本社：兵庫県神戸市中央区、代表取締役社長：藤尾益雄、以下「神明HD」）は、2024年3月22日、米及び野菜・果物等の農産物流通の活性化と物流課題の解決を目的とした業務提携を締結しましたのでお知らせいたします。



右から、株式会社神明ホールディングス・代表取締役社長 藤尾益雄様、
熊本大同青果株式会社・代表取締役会長 月田求仁敬

■業務提携の目的

熊本大同青果は、青果物の専門商社として、日本の「食」と「農業」を支えていくこと使命としており、グループ会社には国産冷凍野菜の製造・販売を手掛ける熊本大同フーズや乾燥野菜の製造・販売を手掛けるHOSHIKO Linksなど、グループ全体を通して青果物の集荷から製造、加工、販売まで一貫した青果物流通の体制を整えております。

神明HDは、「私たちはお米を通じて、素晴らしい日本の水田、文化を守り、おいしさと幸せを創造して、人々の明るい食生活に貢献します。」の企業理念のもと、米穀事業を中心に、青果事業への参入や外食事業の展開など、アグリフードバリューチェーン構築に取り組んでおります。

今回の提携で、両社は農産物流通における経営資源の相互活用、東西における物流網の構築、及びスーパーマーケットや外食産業への販売拡大を推進することが可能になります。これにより、産地と消費地をこれまで以上に強固に繋ぎ、様々な課題を抱える農産物流通の課題解決に取り組み、持続可能な農業の実現に貢献してまいります。



■業務提携の概要

(1) 農産物流通における経営資源の相互活用

熊本大同青果グループは、一大産地である熊本県に地方卸売市場、国産冷凍野菜の製造・販売を手掛ける熊本大同フーズをはじめ、産地市場のメリットを活かし、九州エリアはもとより全国への販売体制を構築しております。一方、神明グループは、全国に7ヶ所の精米工場と保管施設、また東果大阪、東京シティ青果、岡山大同青果等を中心とした消費地市場を拠点に販売体制を構築しております。

これら両社のインフラを相互活用することで、物流問題の課題解決と取扱数量の拡大を目指します。

(2) 米・野菜における協業

神明グループは、米流通において広範囲にわたる仕入れ及び販売網を構築しております。熊本大同青果は九州エリアにおいて多くの販売先へ青果物の供給を行っております。両社の販売力を活かし、米から野菜への転作が必要な産地を支援いたします。

両社グループの販売網を活用し、産地へスーパーマーケットや外食産業などの販売先を伴ったマーケットイン型の作付けを提案してまいります。

(3) 農産物加工品における協業

熊本大同青果グループは、熊本大同フーズの冷凍青果物及びHOSHIKO Linksの乾燥野菜を製造し、販売しております。神明グループは、無菌包装米飯をはじめ、数々の農産物加工品を製造し、販売しております。両社は生鮮分野以外においても、農産物の需要拡大に取り組んでおります。

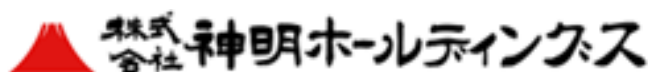
両社グループが製造する農産物加工品をそれぞれの販売網を活用し、販売を拡大いたします。

■今後の展開

今後は、両社で連携プロジェクトチームを発足させ、上記の協業を推進いたします。両社の強みを活かし、差し迫った様々な課題である物流の効率化、需要の拡大、生産者の利益最大化に全力を尽くし、農産物流通に新たな価値を創造してまいります。



■両社の概要



名称：株式会社神明ホールディングス
所在地：兵庫県神戸市中央区栄町通6丁目1番21号
代表者：代表取締役社長 藤尾益雄

<会社概要>

神明HDは、1902年に米穀卸として兵庫県にて創業、1950年に神戸精米株式会社(現・神明HD)を設立し、現在は、「私たちはお米を通じて、素晴らしい日本の水田、文化を守り、おいしさと幸せを創造して人々の明るい食生活に貢献します」の企業理念のもと、米穀の卸売業を中心に、青果物、水産品、外食分野等の多種多様な事業展開を行うことで、「川上から川下までのアグリフードバリューチェーン構築」を目指しており、現在の神明グループ連結売上高は、約4,069億円に達しております。



名称：熊本大同青果株式会社
所在地：〒860-0058 熊本県熊本市西区田崎町484
設立：1961年3月
代表者：代表取締役社長 月田 潔孝
URL：<https://www.oyasai.ne.jp/>
事業内容：全国各地の青果物の生産者から委託を受け、青果物を仲卸および小売業者に販売する卸売りおよび卸売市場の運営・冷蔵倉庫業

<会社概要>

1961年(昭和36年)創業。現在の青果物の取扱量は、1日約680トン、年間で約17万トンになります。青果物の専門商社として、日本の「食」と「農業」を支えていくことを使命としています。グループ会社は6社(熊本大同ホールディングス(株)、(株)大同リース、(株)HOSHIKO Linksなど)。2019年6月には国産冷凍野菜の製造・販売を手掛ける熊本大同フーズ(株)を設立し、グループ全体として青果物の生産から加工、販売、流通まで一貫して手掛ける総合流通業としての体制を整えております。

また、2021年8月には、「熊本県SDGs登録制度」に登録。加工野菜(乾燥・冷凍)事業を通して、廃棄予定の野菜や果実を使った商品開発や農地の有効活用、サプライチェーンにおける食品ロスの減少などにも取り組んでいます。